



浦 添 市 地 域 公 共 交 通 会 議

【 第 1 回 】

資料3：浦添市の公共交通を取り巻く現状と課題

平成29年11月13日

浦添市都市建設部都市計画課



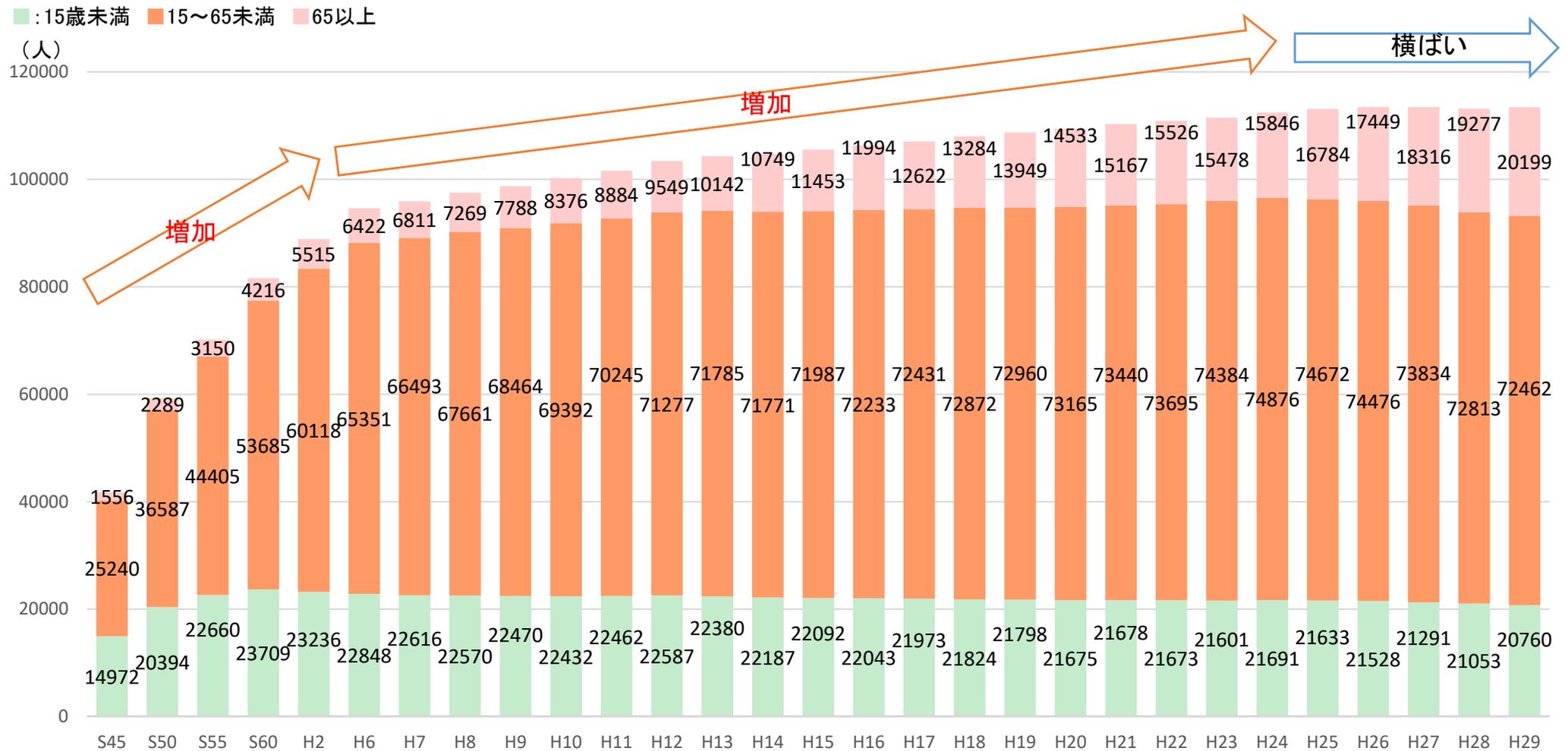
1. 公共交通を取り巻く現状
2. 上位関連計画・施策
3. 公共交通関連施策の動向
4. 浦添市の公共交通の課題

1.公共交通を取り巻く現状



①地域の現状：浦添市の人口推移

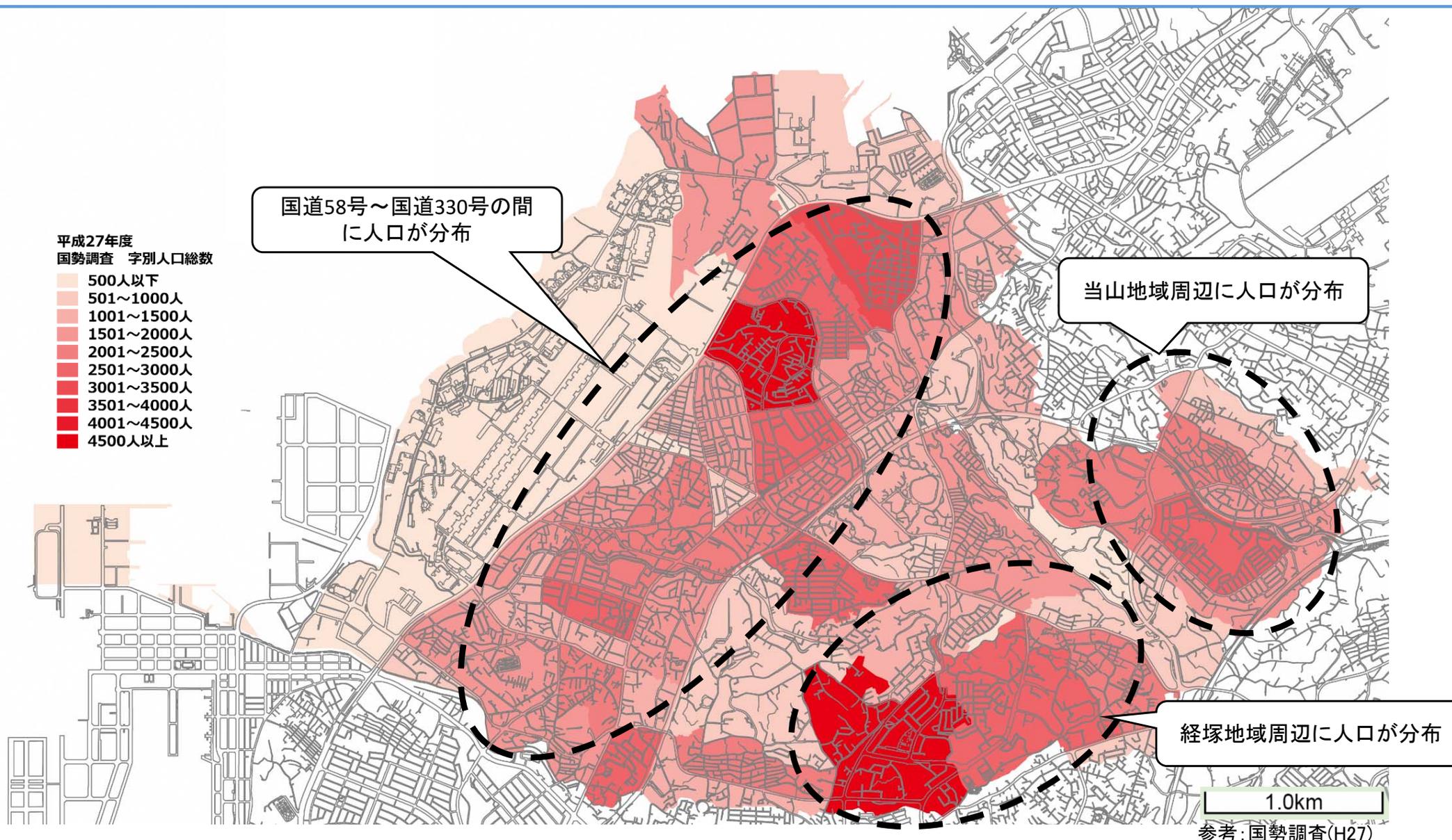
- 浦添市の人口は平成28年度時点で113,143人
- 人口総数について、平成25年度までは増加傾向にあったが、近年では横ばい傾向
- 年齢別にみると、15歳未満、15～65未満が減少傾向、65歳以上が増加傾向



出典：国勢調査(S45～H2)
住民基本台帳(H6～H29)

①地域の現状：人口の分布

- 浦添市の人口は主に、国道58号～国道330号の間、経塚地域周辺、当山地域周辺に人口が集中
- 経塚地域周辺では、モノレール延長整備や区画整理が実施中



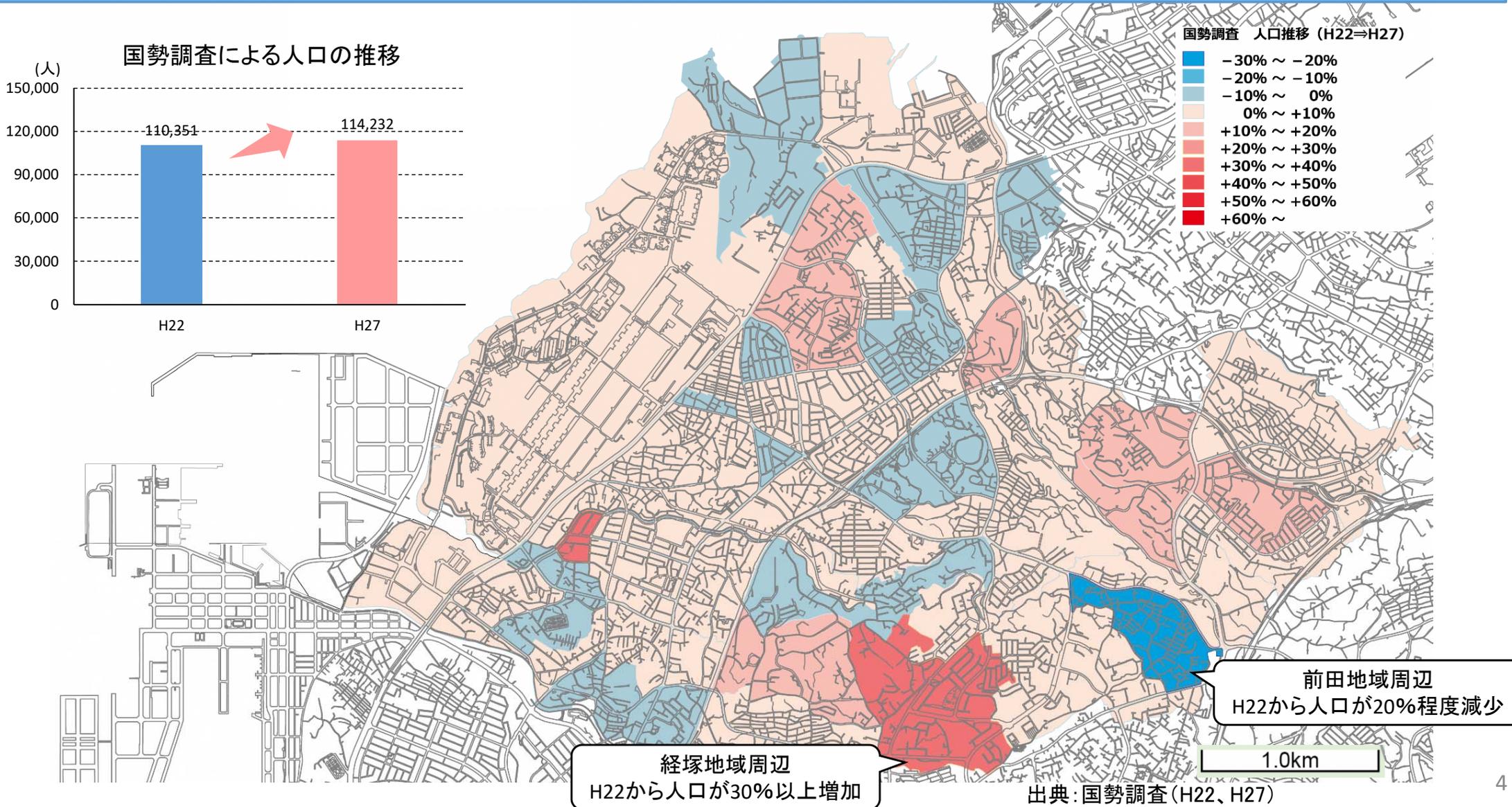
参考：国勢調査(H27)

1.公共交通を取り巻く現状



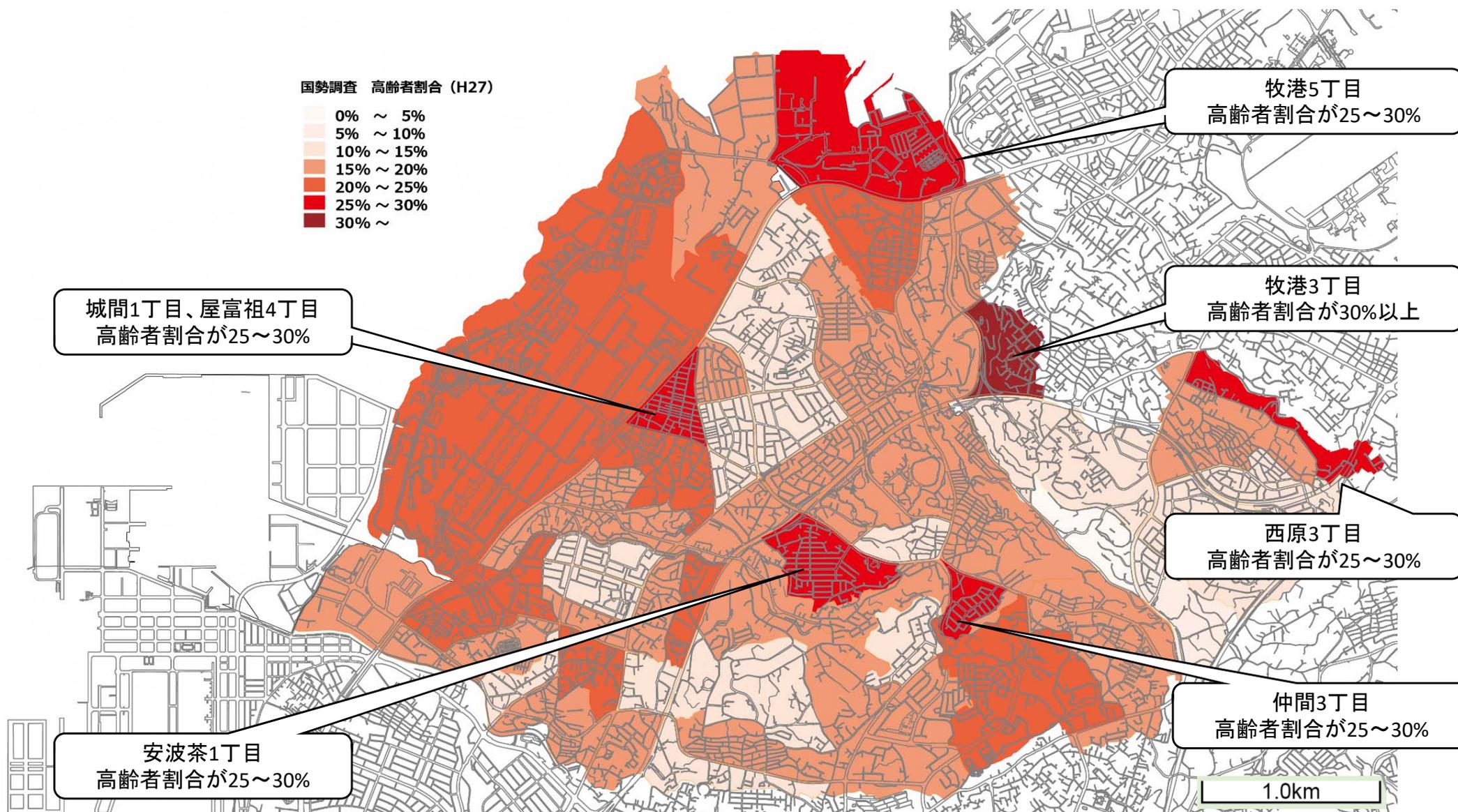
①地域の現状：人口の推移、増加率

- 地域別で見ると、経塚地域周辺において30%以上の人口が増加
- 今後もモノレール延長区間の開業や区画整理の進捗に伴いさらなる増加が想定
- 前田地域の人口減少については、公務員宿舎の売却などが要因と想定



①地域の現状：地域別の高齢者割合

○高齢者(65歳以上)割合を地域別で見ると、高齢者の割合が30%を越える地域が存在

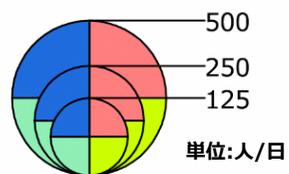


参考：国勢調査(H27)

①地域の現状：学校の分布、送迎交通

○浦添市内の高校では、生徒の半数以上が自家用車による送迎を経験

平成23年度
沖縄県公共交通活性化推進協議会
学校調査結果より作成



- 良く送ってもらう
- たまに送ってもらう
- 送ってもらったことはない
- 不明



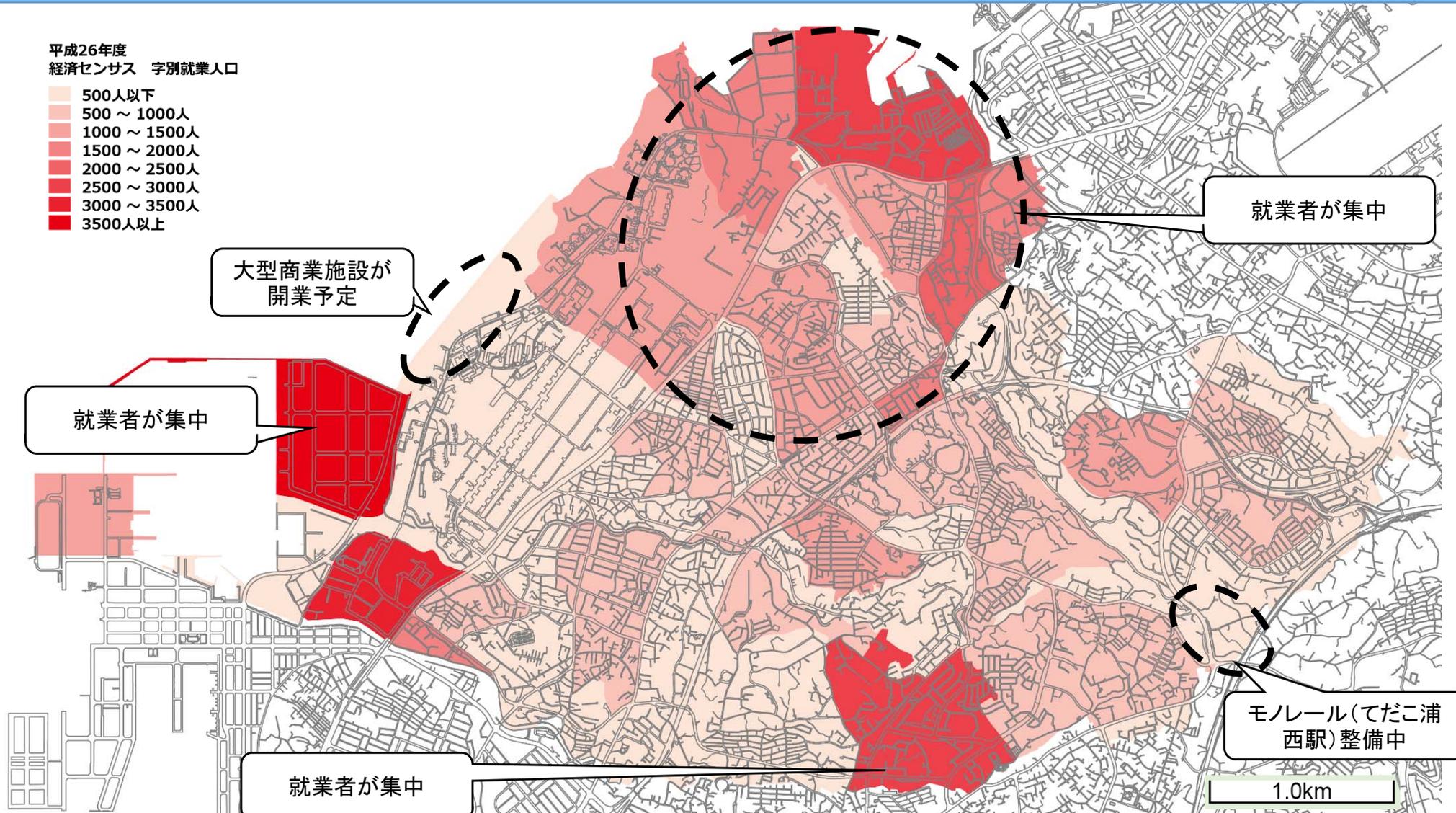
参考：沖縄県公共交通活性化推進協議会学校調査結果（H23）

1. 公共交通を取り巻く現状



①地域の現状：就業人口の分布

- 牧港地域周辺、経塚地域周辺、当山地域周辺、西洲地域周辺等に就業者が集中
- 浦添市では、那覇港浦添ふ頭地区第一ステージに県内最大級の大型商業施設がH31年に開業し、就業者の増加が考えられる
- モノレール最終駅であるてだこ浦西駅においてもまちづくり計画が進められており、就業者の増加が考えられる



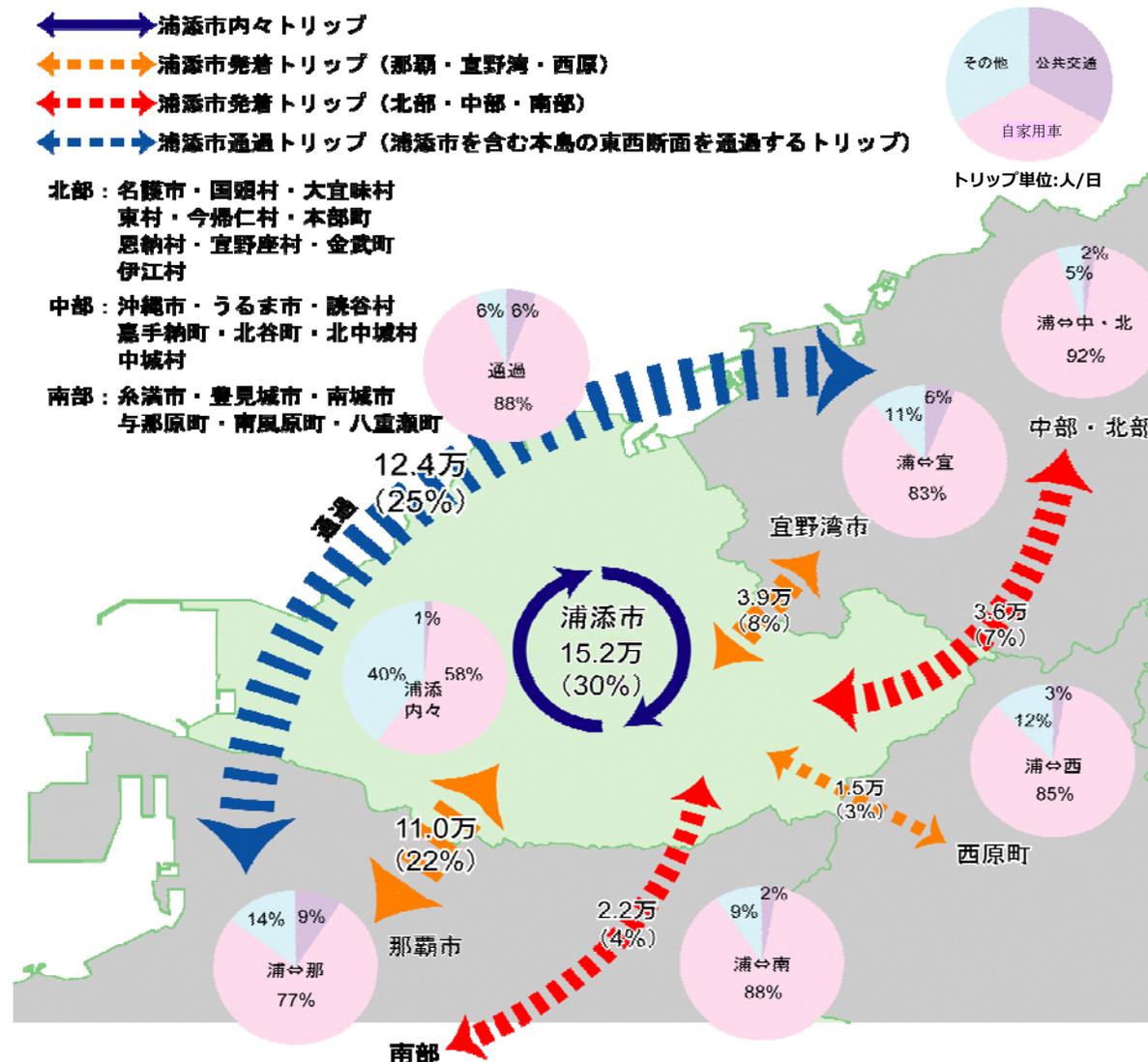
参考：経済センサス(H26)

1.公共交通を取り巻く現状



②移動特性：ゾーン別移動ニーズ

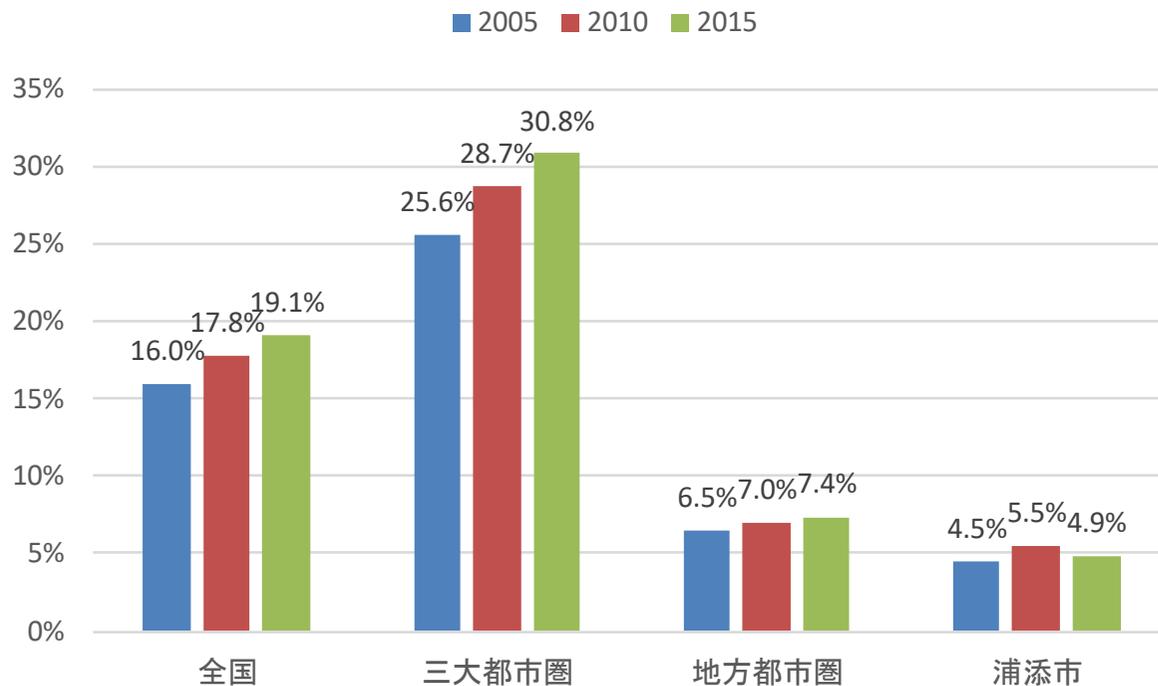
- 浦添市内を移動するトリップは、15.2万トリップ（全体の30%）となっており、交通分担率では58%が自動車を利用
- 市内外のトリップで、那覇市が11.0万トリップ（全体の22%）で最も多く、次いで宜野湾市が3.9万トリップ（全体の8%）
- 全ての市内外トリップの自動車分担率が75%以上



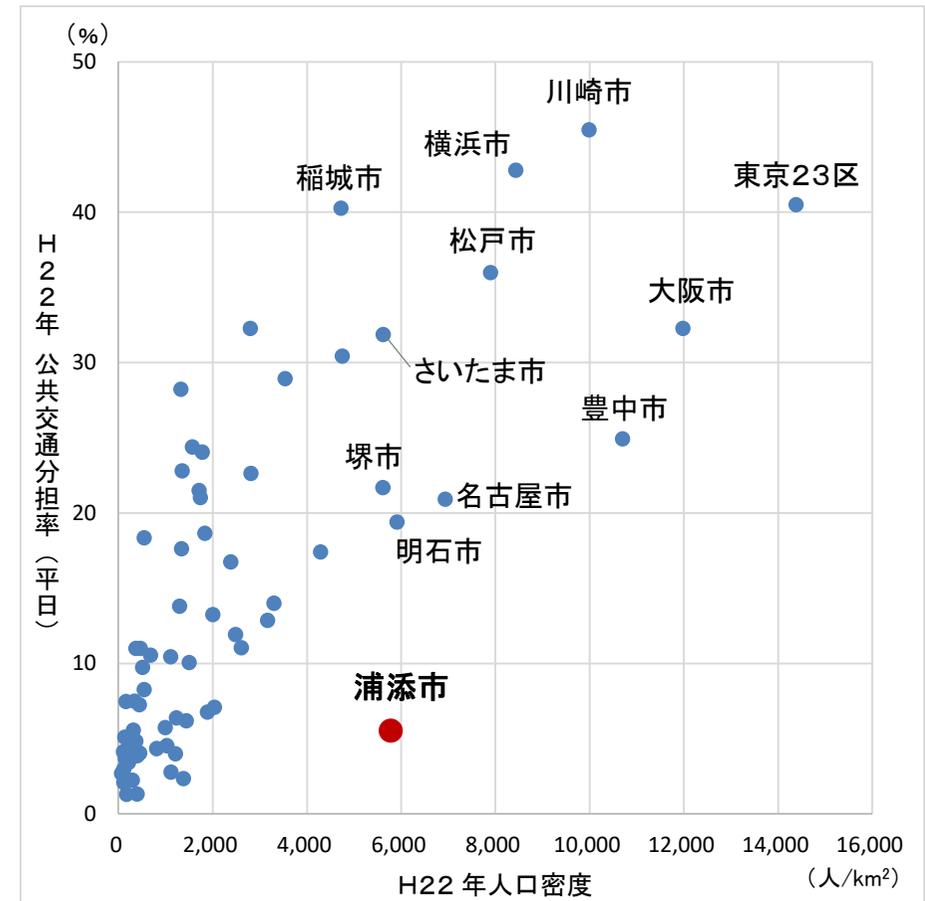
②移動特性：分担率

- 公共交通（鉄道+バス）の分担率は、2005年は4.5%、2010年は5.5%、2015年で4.9%となり、全国、三大都市、地方都市と比べ、公共交通分担率が低い
- 公共交通（鉄道+バス）の分担率と、人口密度の関係をみると、人口密度が高い都市では、分担率が高い傾向にあるにも関わらず、浦添市は、同程度の人口密度の都市と比べると、公共交通の分担率は低い

・公共交通（バス+鉄道）分担率



・公共交通（鉄道+バス）の分担率（平日）と人口密度の関係



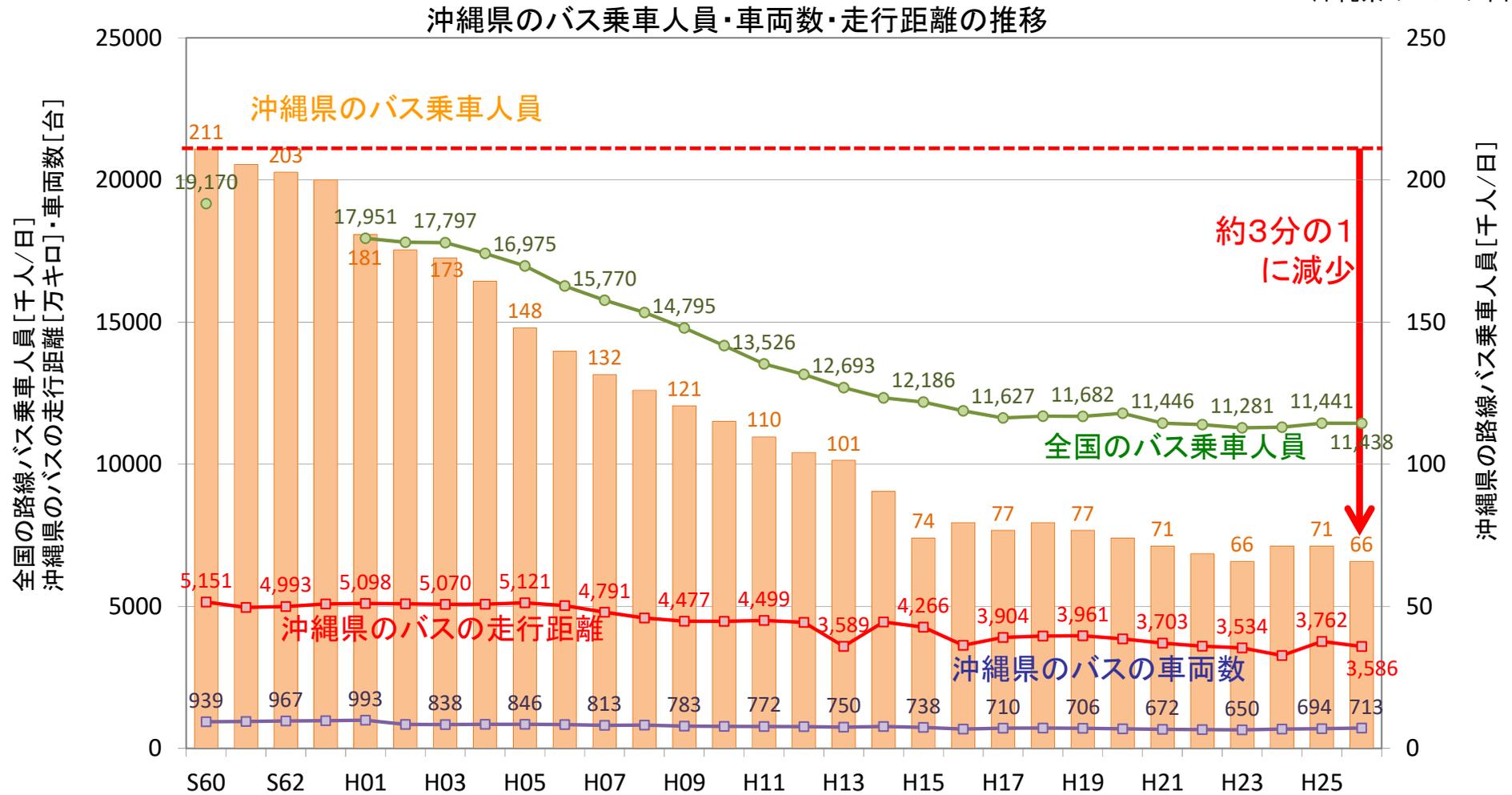
1.公共交通を取り巻く現状



③バス利用の現状：路線バスの乗車人員の推移

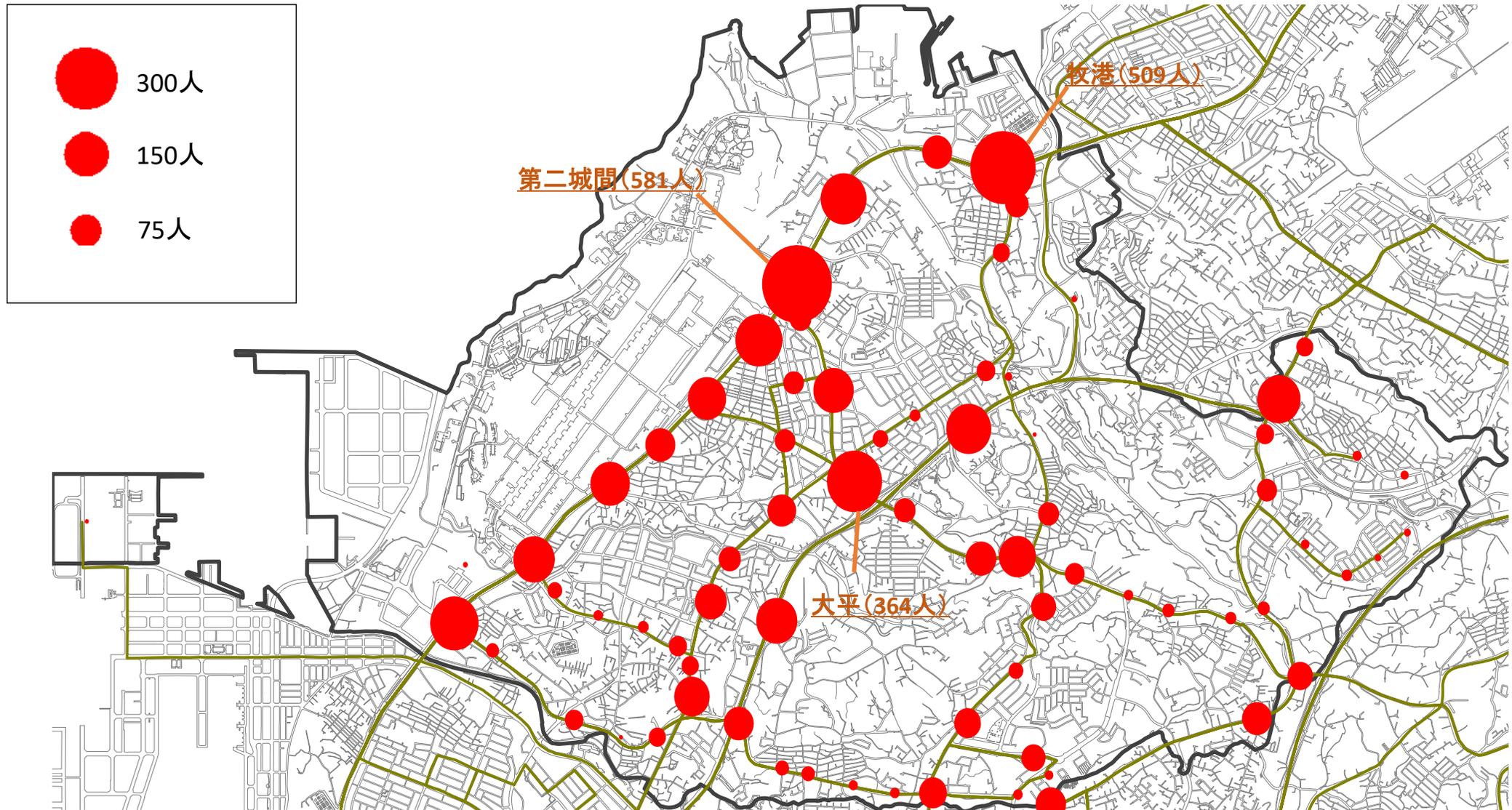
○バス利用者数は、最近の10年ほどは概ね横ばいで推移しているが、昭和60年頃と比較すると、約3分の1に減少

- 沖縄県のバスの乗車人員
- 全国のバスの乗車人員
- 沖縄県のバスの走行距離
- 沖縄県のバスの車両数



③ バス利用の現状：バス停別の乗降車人数

- 乗車・降車とも、国道58号のバス停利用者が多く、次いで国道330号のバス停が多くなっている。
- 幹線道路以外の市内のバス停では、利用者が少ない傾向がみられる。

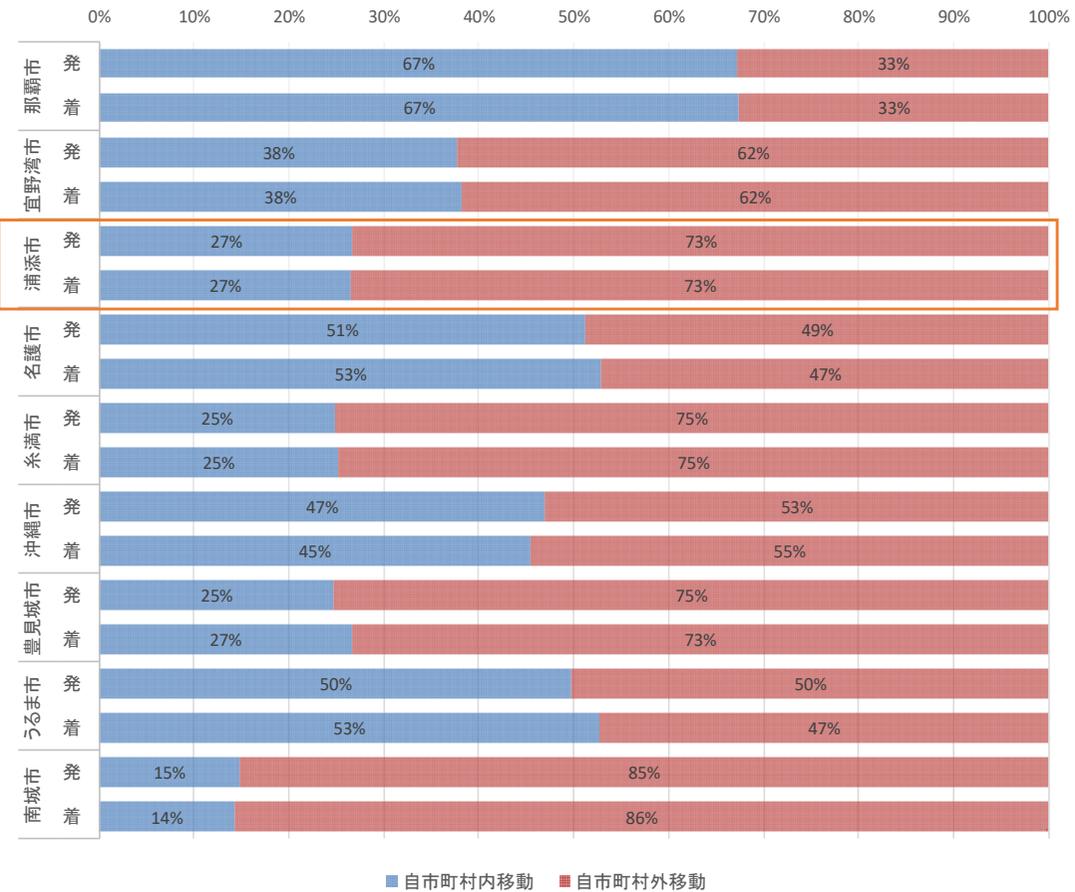




1. 公共交通を取り巻く現状

③ バス利用の現状：バス利用者の目的、利用場所

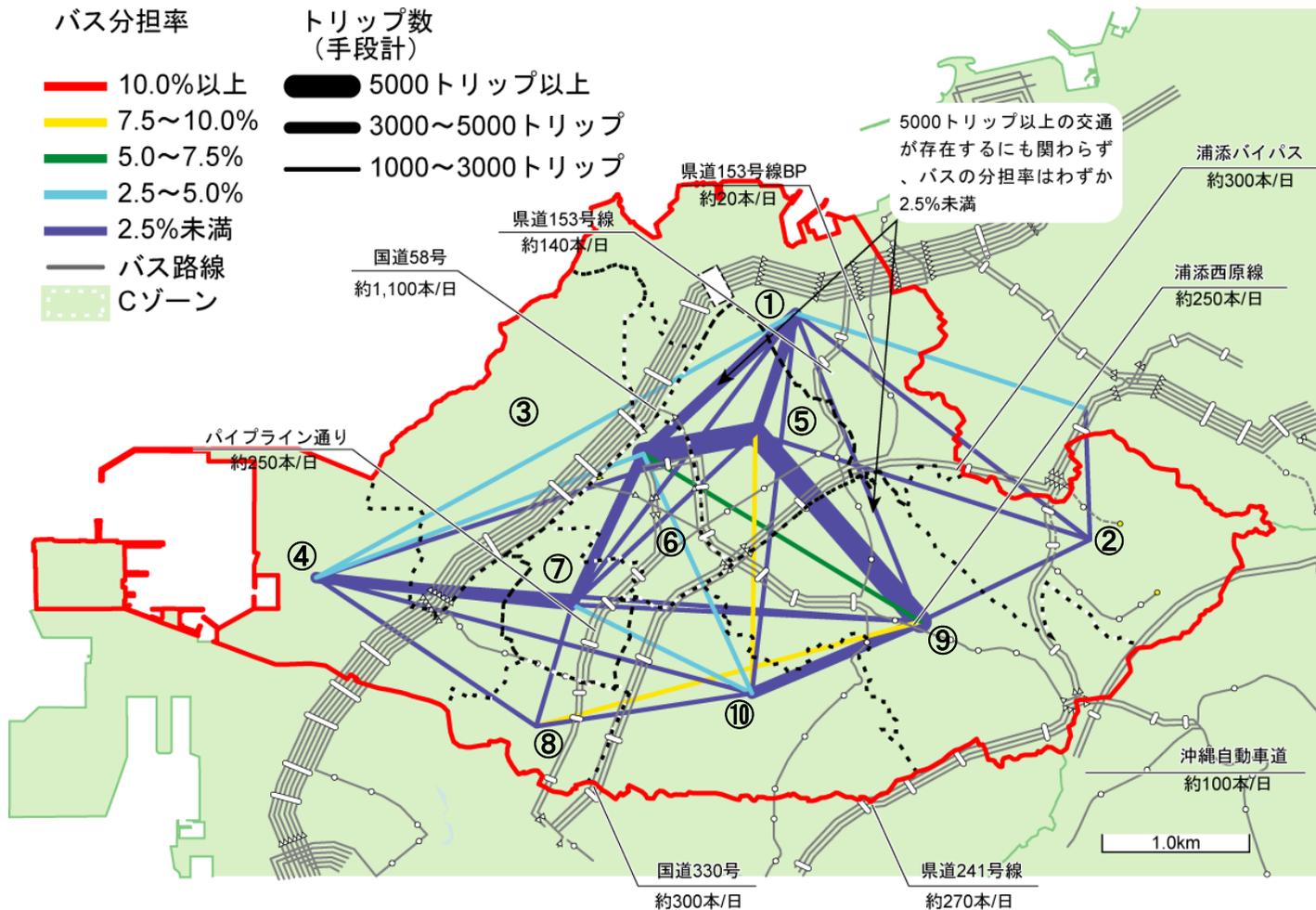
- バス利用者の目的構成は、浦添市で約4割が通勤、3割が通学、1割が仕事・業務目的であり、通院や娯楽・飲食・観光などの私事目的は約15%となっている。
- 他自治体と比較すると、通勤目的での利用が那覇市に次いで高くなっている。
- 自市町村内・自市町村外の割合を見ると、浦添市は約3割が自市町村内移動、約7割が自市町村外移動となっている。
- 他自治体と比較すると、浦添市では、自市町村外移動の割合が高くなっている。



1. 公共交通を取り巻く現状

③ バス利用の現状：バス路線と移動ニーズ

- 市内発着の移動でみると、発生集中量の多い港川を含むゾーンを中心に隣接ゾーン間の移動が5,000トリップ以上と多い
- 国道58号と国道330号に挟まれた地域では、南北方向のトリップが特に多く、国道330号より東側の地域では東西に横断するようなトリップが多い
- バス網も東西方向の移動は脆弱で、浦添市を横断する路線は、浦添西原線に限定されている。加えて、その横断軸も直通で運行する系統は存在しないため、利便性が高いとはいえない状況



■ゾーン別地域

ゾーン① 牧港1~5 港川 伊祖5	ゾーン② 西原1~6 当山1~3
ゾーン③ キャンプ キンザー	ゾーン⑤ 城間4 港川1~2 伊祖1~4
ゾーン④ 伊奈武瀬 西洲1~2 勢理客1~4 仲西1~2	ゾーン⑥ 屋富祖1~3 城間1~3 大平1
ゾーン⑦ 宮城1~6	ゾーン⑨ 前田 前田1~3 仲間1~2
ゾーン⑧ 内間1~4	ゾーン⑩ 経塚 沢岬 沢岬1~2 大平2 大平

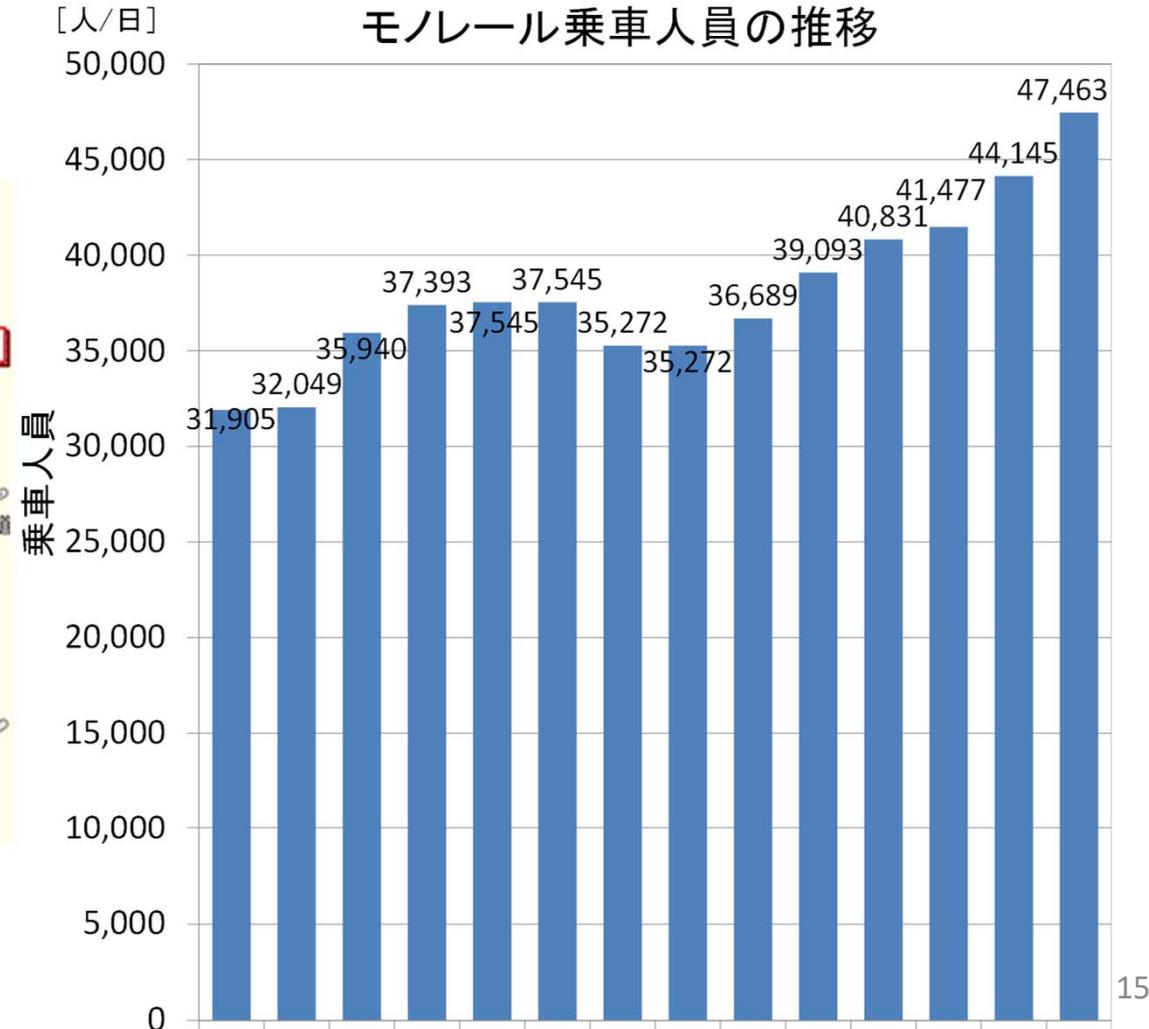
④モノレール利用の現状：利用者の推移

- 那覇空港駅～首里駅をつなぐモノレール（通称：ゆいレール）はH15年8月の開業以降、順調な利用が続いており、H28年度は一日あたり約4.7万人が利用
- H26年10月には、I Cカード乗車券の利用が開始され（H27年から路線バスでの利用も開始）、延長事業が進められH31年に開業を予定

ゆいレールの路線図（平成27年9月現在）



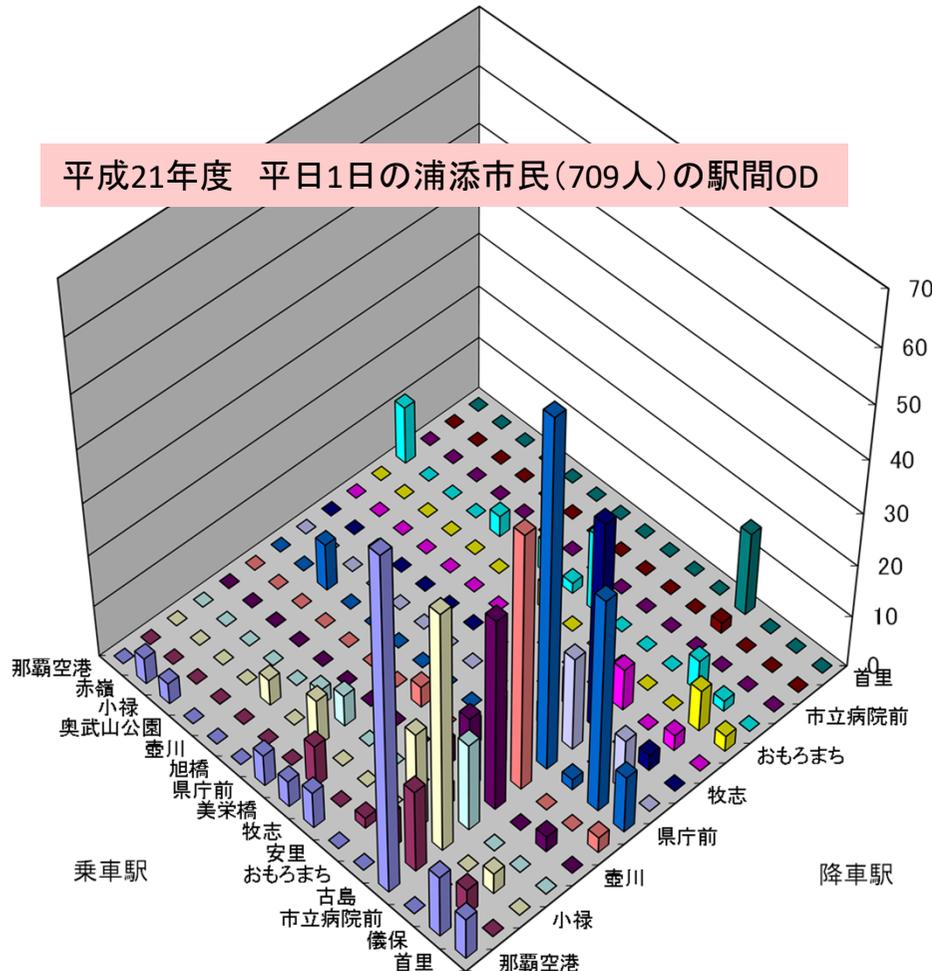
モノレール乗車人員の推移



④モノレール利用の現状：浦添市民の利用特性

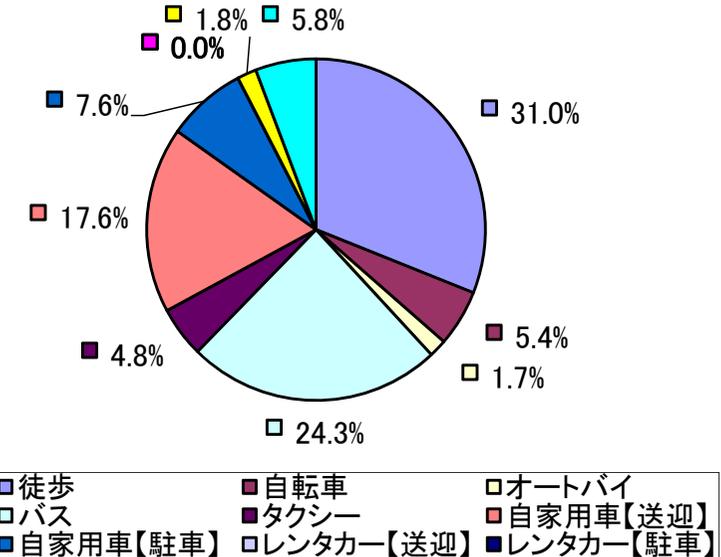
- 浦添市民の既存駅の利用状況を見ると、最も利用の多い駅は古島駅となっており、古島駅から牧志駅以南への移動に主に利用
- 浦添市民のモノレール駅までの移動手段の約24.3%がバス

平成21年度 平日1日の浦添市民(709人)の駅間OD

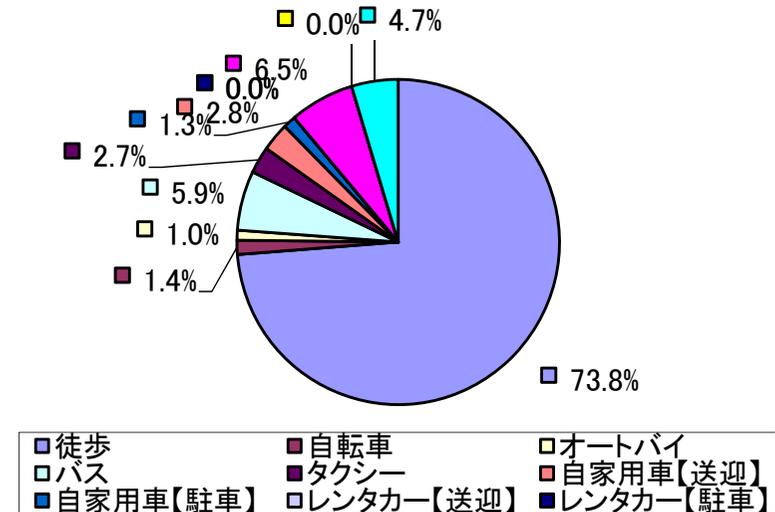


参考：平成21年度沖縄都市モノレール利用OD調査結果より作成

平成21年度 平日1日の浦添市民(709人)の駅までの移動手段



平成21年度 平日1日の浦添市民(709人)の駅からの移動手段



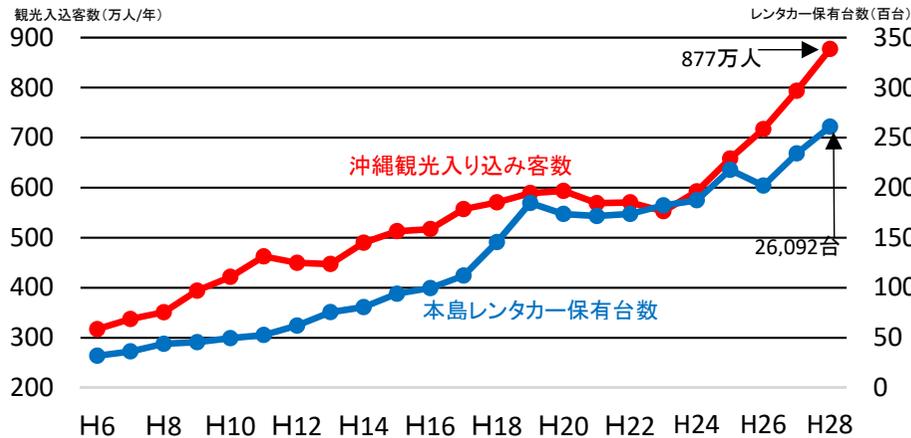
1.公共交通を取り巻く現状



⑤観光客の実態：沖縄県全体の入域観光客の推移及び移動手段

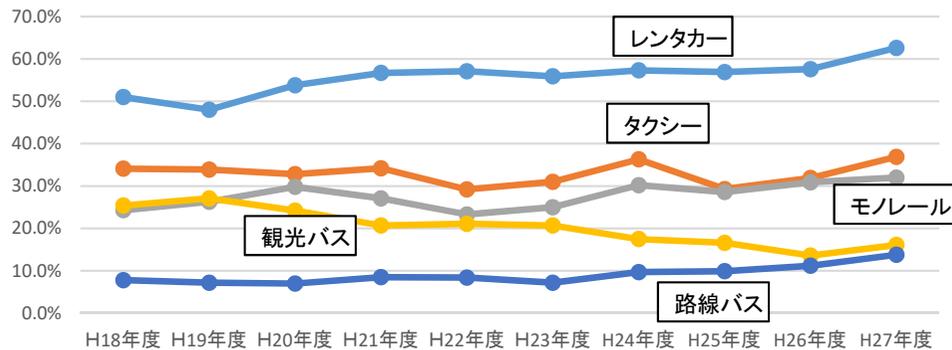
- 近年観光客も大幅に増加、利用者の約6割はレンタカーで移動
- 路線バス及びモノレールなどの公共交通の利用割合も増加傾向
- クルーズ船の寄港数も大幅に増加

◆観光客の移動手段はレンタカー（約6割）

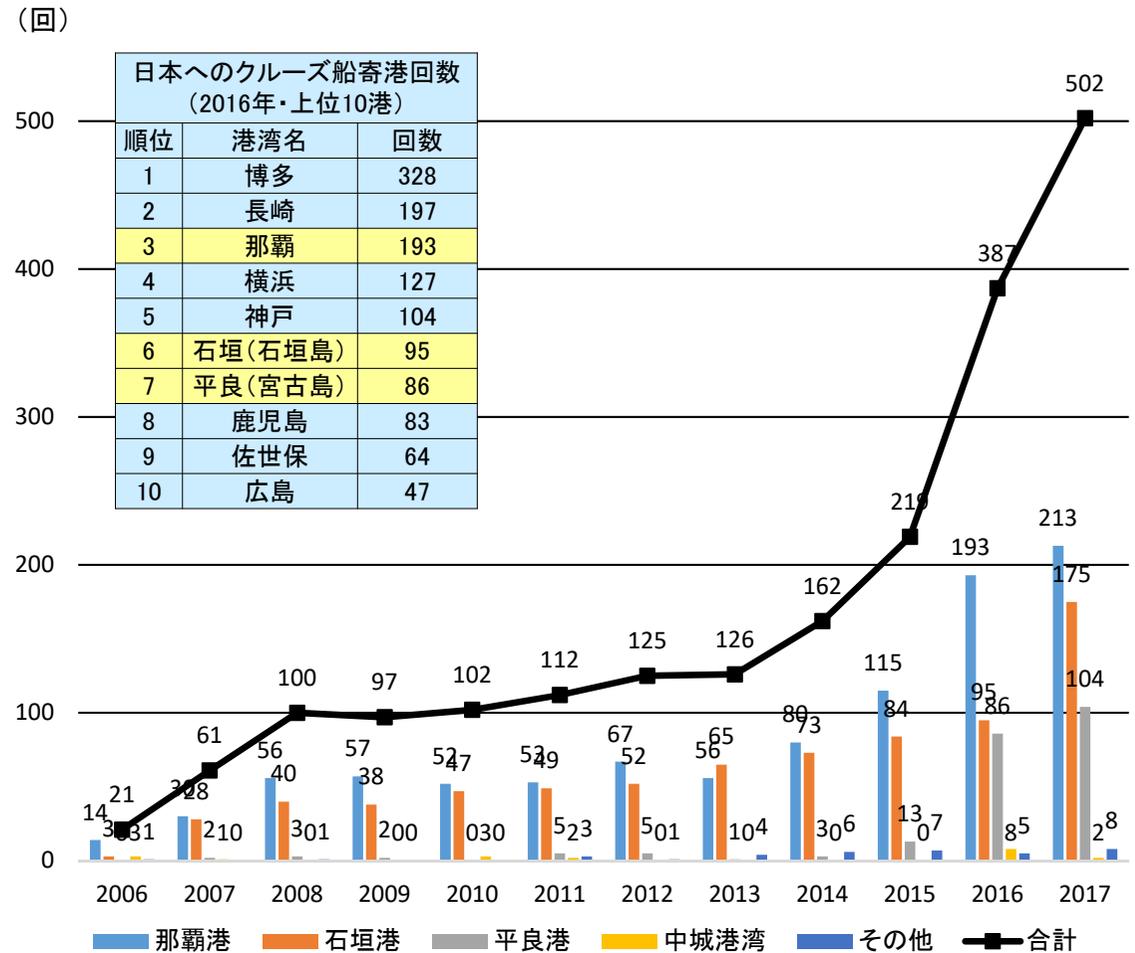


【県外観光入込客数とレンタカー保有台数の推移
資料：運輸要覧、入域観光客統計概要

◆沖縄県滞在中に利用した交通手段



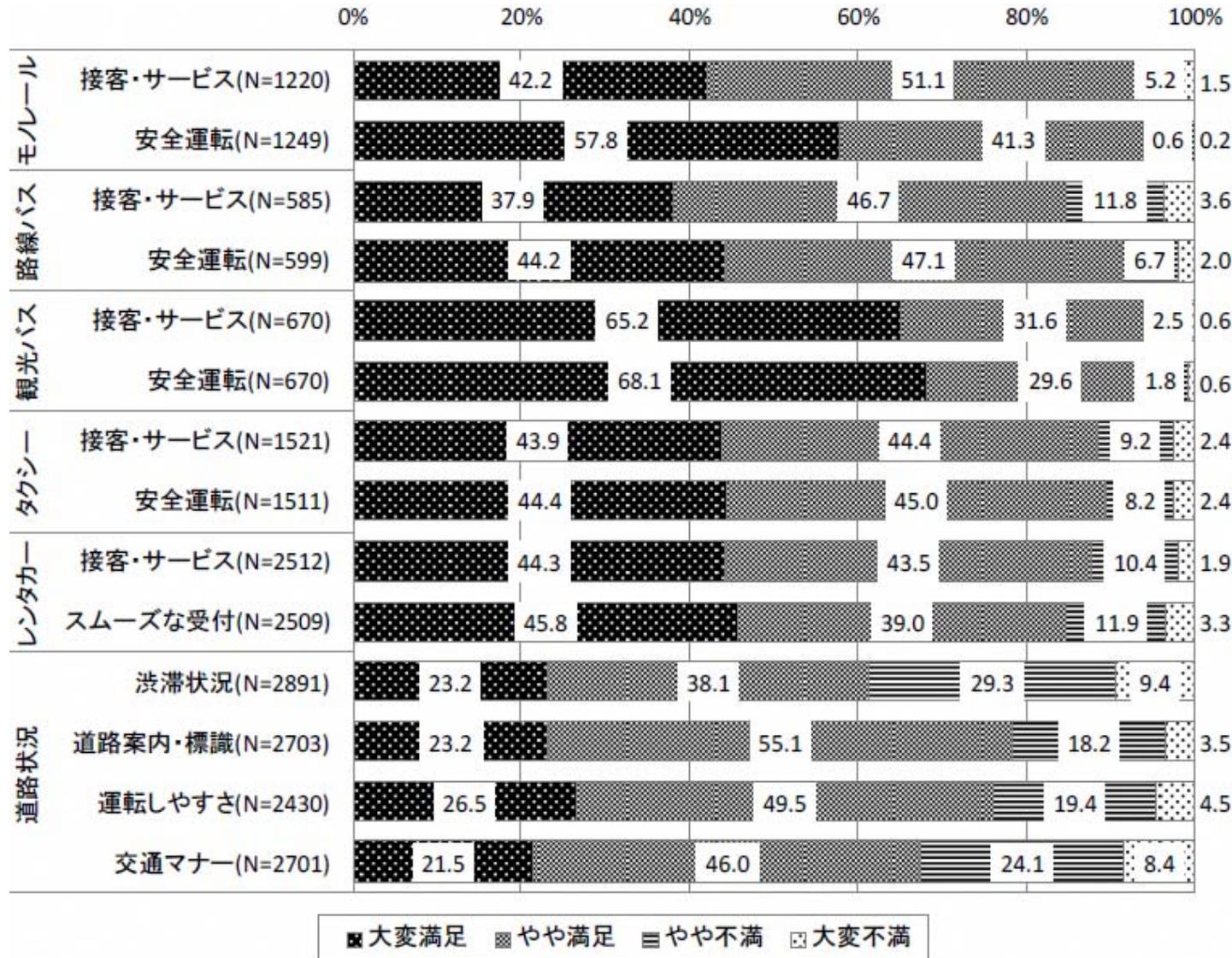
◆沖縄へのクルーズ船の寄港回数の推移



※2017年1月5日時点。天候などにより変更の可能性がある。
※港湾管理者(沖縄県、那覇港管理組合、石垣市、宮古島市)からのヒアリングに基づき沖縄総合事務局が作成

⑤観光客の実態：沖縄県における移動の満足度

○観光客の満足度を高めるためには、交通環境の改善が重要な視点



2. 上位関連計画・施策等の動向



- 浦添市を取りまく交通施策は、広域的な観点から、地域高規格道路の整備、追加ICの整備、沖縄都市モノレールの延長、基幹バスの導入など様々な施策が戦略的に展開されている
- 浦添市の都市交通施策を進める上で、これらの広域的な交通施策と連携しつつ、浦添市内におけるまちづくり、産業振興、観光振興、学校教育等、様々な視点から取り組むことが必要

(沖縄21世紀ビジョン(H22.3基本構想))
 (沖縄21世紀ビジョン基本計画(H24.5)沖縄振興特別措置法)
 (都市計画区域マスタープラン(都市計画法)) 等

(総合計画基本構想・実施計画(地方自治法))
 (国土利用計画(国土利用計画法))
 (都市計画マスタープラン(都市計画法)) 等

沖縄県総合交通体系基本計画(H24,5)

沖縄総合事務局

沖縄県広域道路整備基本計画(H5.12)
 (2環状7放射、ハシゴ道路)
 【沖縄ブロック幹線道路協議会】

那覇都市圏交通円滑化総合計画(H19.12)
 (渋滞交差点対策等)
 【沖縄地方渋滞対策推進協議会】

沖縄の新たな交通環境創造会議(H29.1~)
 (基幹バス導入、BT整備促進等)

沖縄次世代都市交通検討会(H29.7~)

沖縄県

交通政策

TDM施策推進アクションプログラム(H25.3)
 (時差出勤、公共交通利用推進等)
 【TDM施策推進協議会】

那覇市・浦添市・宜野湾市・沖縄市・北中城村地域公共交通総合連携計画(基幹バス等)(H29.3)
 【沖縄県公共交通活性化推進協議会】

中南部都市圏都市交通

沖縄本島中南部都市圏都市交通マスタープラン(H21.3)
 (公共交通NW、道路NW、関連施策等)
 【沖縄本島中南部都市圏都市交通協議会】

モノレール延長エリア総合交通戦略(H21.3)

国道58号~国道330号沿線エリア総合交通戦略(H23.3)

浦添市

都市交通

浦添市交通基本計画(H23.10)

浦添市総合交通戦略(H25.2)

道路整備

自転車利用環境

コミュニティバス

生活道路対策

etc

まちづくり全般

浦添市まち・ひと・しごと創生総合戦略

産業振興

浦添市産業振興ビジョン

観光振興

浦添市観光振興計画(検討中)

前田駅にぎわい交流ゾーン基本計画(検討中)

学校教育

浦添市通学路安全プログラム

etc

① 市内交通関連計画：浦添市交通基本計画（平成23年10月）

○H18 P Tに基づき策定された沖縄本島中南部都市圏都市交通マスタープラン・総合交通戦略、那覇市・浦添市・宜野湾市・沖縄市地域公共交通総合連携計画（基幹バス）などの広域交通計画や市内の現状等を踏まえ、浦添市全域を対象とした浦添市交通基本計画を策定

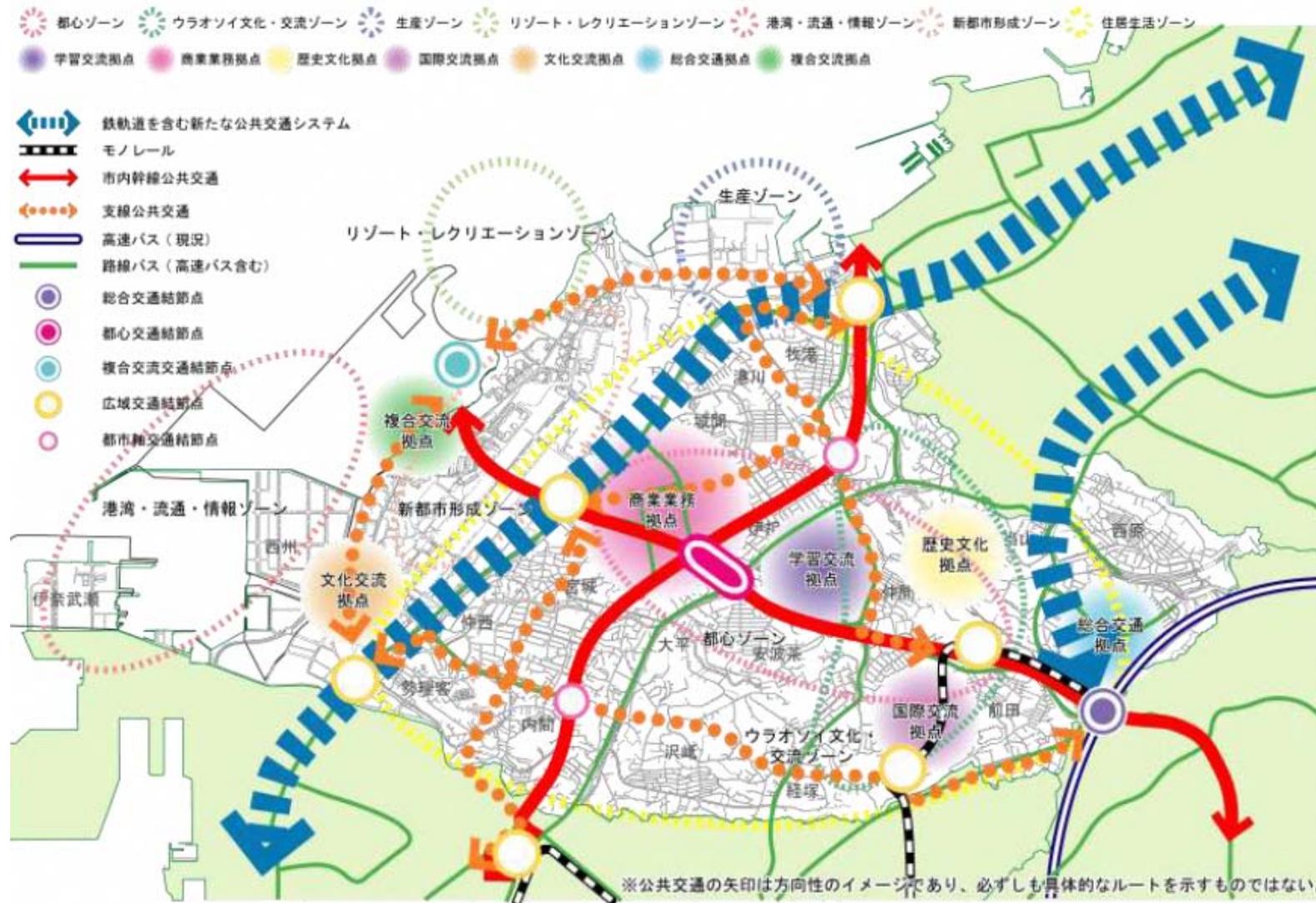


図 4-37 浦添市公共交通ネットワーク図

① 市内交通関連計画：浦添市総合交通戦略（平成25年2月）

○H18 P Tに基づき策定された沖縄本島中南部都市圏都市交通マスタープラン・総合交通戦略、那覇市・浦添市・宜野湾市・沖縄市地域公共交通総合連携計画（基幹バス）などの広域交通計画や、浦添市交通基本計画を踏まえ、浦添市全域を対象とした浦添市総合交通戦略を策定し、重点施策パッケージとして整理

整理した各地域別のパッケージ施策の中から、優先的に実施または検討すべき施策を重点施策として位置づける。重点施策は、エリアごとの基幹事業と強く連携を図ることが求められる施策で、かつ短期（概ね5年）で実現すること、もしくは実施の段階へ進捗することを旨とする施策を対象にパッケージで選定する。

これを各関係機関との調整を踏まえて、重点施策として取りまとめる。各重点施策の実施地域は、下記及び図に示すとおりである。

1. 国道58号沿線エリア・西海岸臨海エリア①
2. 国道58号沿線エリア・西海岸臨海エリア②
3. モノレール沿線エリア・浦添西原線沿線エリア
4. 浦添西原線沿線エリア
5. 国道330号・バイブライン沿線エリア①
6. 国道330号・バイブライン沿線エリア②

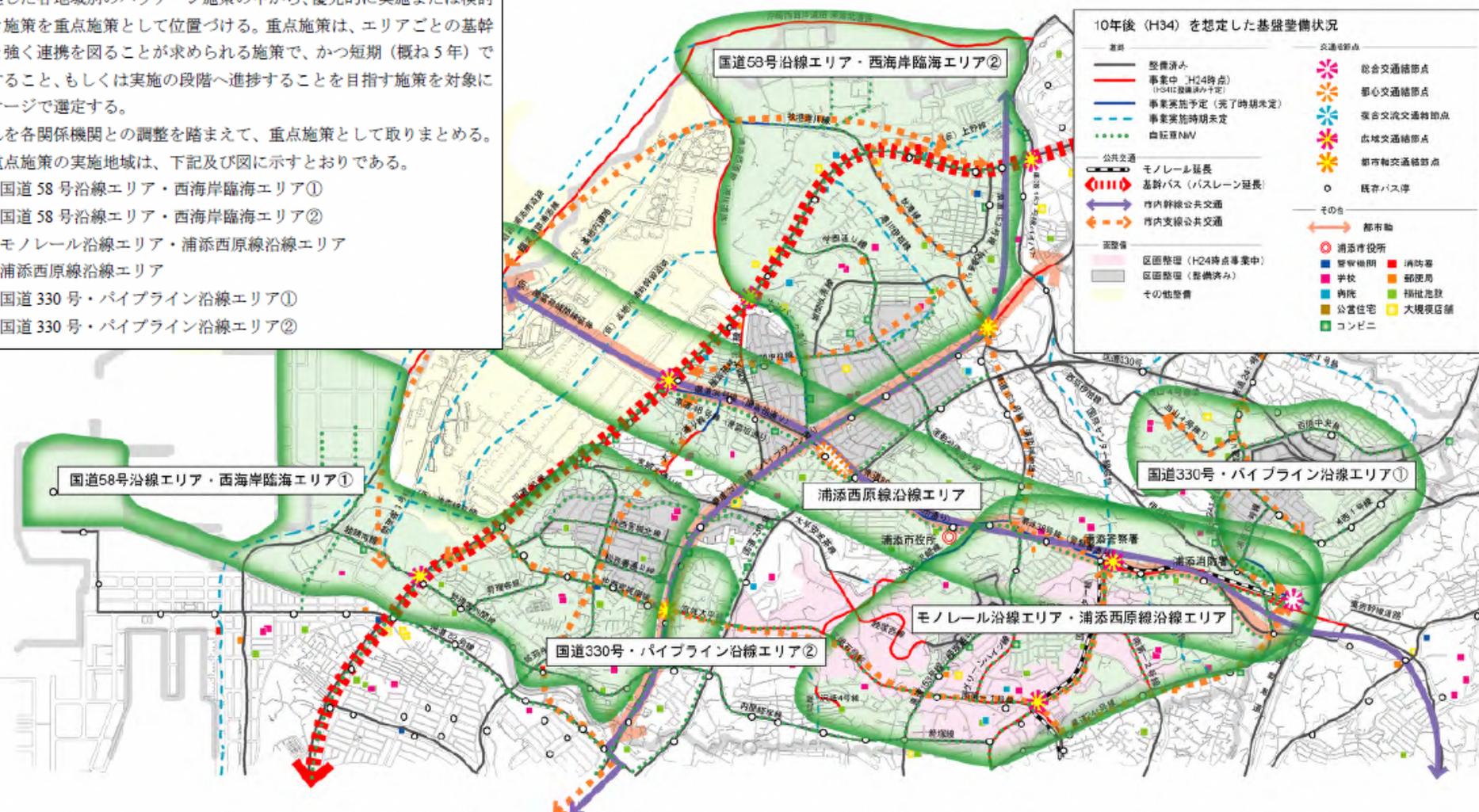


図 5-1 重点施策パッケージ展開箇所図

2. 上位関連計画・施策等の動向

②浦添市内の大型開発：那覇港浦添ふ頭地区第一ステージ都市機能用地事業

- 浦添市では、西海岸開発第一ステージ地区において、既存の沖縄観光にはない新たな付加価値をもつ、にぎわいとゆとりのある質の高い観光型商業交流地区の形成を目指している
- 施設は、県内最大規模の商業施設として、地元生活者や国内外観光客に向けた交流拠点としてH31年に開業予定



	施設名称	店舗面積 (㎡)	駐車台数 (台)
1	第一ステージ (事業予定者：サンエー)	60,000 (予定)	3,800 (予定)
2	イオンモール沖縄ライカム	57,418	3,089
3	サンエー那覇メインプレイス	37,110	2,450
4	イオン那覇店	29,000	1,500
5	デパートリウボウ	21,204	171
6	沖縄アウトレットモールあしびなー	20,966	727
7	Tギャラリー沖縄	9,311	305

2. 上位関連計画・施策等の動向

②浦添市内の大型開発：てだこ浦西駅周辺土地区画整理事業

○モノレール延長事業の第4駅であるてだこ浦西駅周辺では、約20haの区画整理事業が進められている

てだこ浦西駅 周辺整備

終点であるてだこ浦西駅周辺において、沖縄自動車道と浦添西原線、都市モノレールが結節する優れた交通結節機能確保のため、インターチェンジや1000台規模のパーク&ライド駐車場、交通広場を整備し、公共交通ヘシフトする施策を展開します。
また、近隣では西原地区区画整理事業やてだこ浦西駅周辺土地区画整理事業があり、周辺地域と一体となった整備を行います。

■幸地インター線(幸地IC)

沖縄自動車道と浦添西原線バイパス及びモノレールを結節する道路を整備します。

- 計画交通量:約10,170台/日
- 利用方向:フルアクセス
- 幅員:w=19m(2車線)
- 対応車種:全種
- 延長:約900m

幸地インター線は、沖縄自動車道と浦添西原線(県道38号線)を連結する自動車専用道路です。また、併せて浦西停車場線を整備し、幸地インター線とてだこ浦西駅を連結することで、高速バスとモノレールが一体となった公共交通システムの構築を図り、那覇都市圏の渋滞緩和に寄与します。

■浦西停車場線

駅へのアクセス道路を整備します。

- 計画交通量:約5,600台/日
- 幅員:w=19m(2車線)
- 延長:約580m

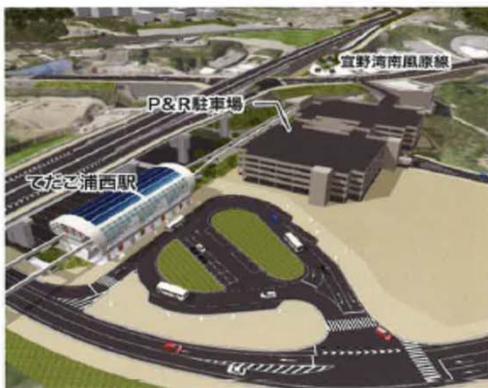
■P&R駐車場

モノレールと自動車のスムーズな乗り継ぎを可能とする等の結節機能を充実させ、自動車からモノレールへの転換を促進するためのパーク&ライド駐車場を整備します。

- 建物規模:4階建て(4層5段)
- 駐車台数:約1000台
- 敷地面積:約9,800m²
- 出入り・アクセス:地上階と5階に出入り口を設置(地上階は浦添市道、5階は宜野湾南風原線に接続)



P&R駐車場完成イメージ



■浦添西原線1号橋

浦添市港川から西原町嘉手苅まで伸びる県道浦添西原線の道路拡幅計画に伴い、本県道の一部区間(浦添市前田から西原町徳佐田区間)では、橋長約400mの橋梁(仮称 浦添西原線1号橋)を整備します。

- 計画交通量:41,000台/日
- 幅員:w=30m(4車線)



浦添西原線1号橋完成イメージ

西原町幸地付近



てだこ浦西駅周辺 完成イメージ



2. 上位関連計画・施策等の動向

③浦添市内におけるまちづくりの取組：まちゼミ

○平成29年度より第1回得する街のゼミナールとして、浦添市内に点在する様々なお店のプロの知識や技を体験できる、少人数のミニ講座を開始



～知って得するプロの知識や技を学び、体験できる!～

第1回 得する街のゼミナール 全33講座

浦添まちゼミ はじまります!

開催期間：2017年9月16日(土)～10月13日(金)

参加者募集!
9/8(金)
受付開始!

「まちゼミ」って何？
まちゼミとはお店の方が講師となって、プロならではの“知識”や“コツ”を無料で、楽しいユンタクを交えて教えてくれる少人数のミニ講座です。

受講料無料

- 講座によって材料費がかかるものがあります。
- 材料費は原則、当日会場で徴収致します。
- お申し込み後のキャンセルは材料費を頂戴する場合があります。あらかじめご了承下さい。

申込は各店へ

- 定員に達し次第、締め切りさせて頂きます。
- お申し込みは各店舗の受付時間内にお願いします。
- 受講対象者が限定されている講座がありますのでご確認ください。



2. 上位関連計画・施策等の動向

③浦添市内におけるまちづくりの取組：観光・イベントの取組

○浦添市内には、港川外人住宅、浦添大公園など、観光客が訪れるスポットが点在

TAKE FREE

lets make a trip to live

暮らしのように旅する都市、
浦添市
うらそえ
URASOE CITY GUIDE BOOK

玉城ティナと巡る
浦添さんぽ

浦添グルメ・歴史・
文化・情報満載

訪観な時間
クーポン付！

沖縄全域マップ

那覇空港から
車で約15分！

浦添市

港川ステイツサイドタウン拡大図

浦添
アクセスマップ
urasoe access map

多言語コンタクトセンターのご案内

多言語コンタクトセンターは、沖縄県が提供する外国人観光客専用の公共サービスです。観光案内や予約サービス、災害時の対応などを電話・メール・Skypeで行っています。【対応時間】9:00～21:00 ※通話料のみかかります。

電話 スカイプ
英 語：0570-077201 英 語：call-center-01 / call-center-02
中 国 語：0570-077202 中 国 語：call-center-ch01 / call-center-ch02
韓 国 語：0570-077203 韓 国 語：call-center-ko01 / call-center-ko02
タイ 語：0570-077207 タイ 語：call-center-th01 / call-center-th02

【病院・クガの隣の救急病院連絡先(浦添市内)】
浦添総合病院 098-8779-0231
牧港中央病院 098-877-0575
横井第一病院 098-877-5806

③浦添市内におけるまちづくりの取組：通学路の安全対策

- 平成28年度に浦添市通学路交通安全プログラムを策定し、各学校別に点検、対策、効果検証、改善等を実施予定
- 通学路の通過交通による交通問題に加えて、送迎交通も大きな課題

浦添市通学路交通安全プログラム

【PLAN】

- 小学校区点検
- 重要危険箇所点検
- 対策の検討

【DO】

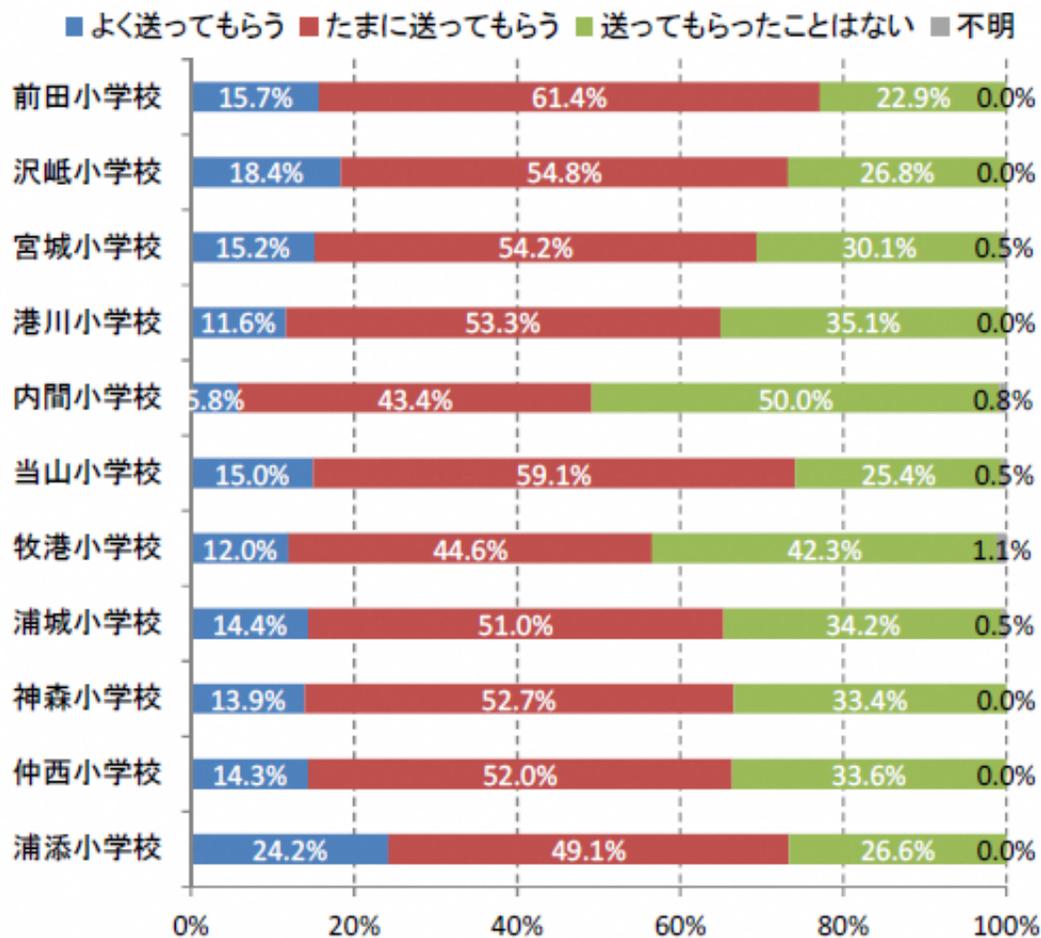
- 対策の実施

【CHECK】

- 対策効果の把握

【ACTION】

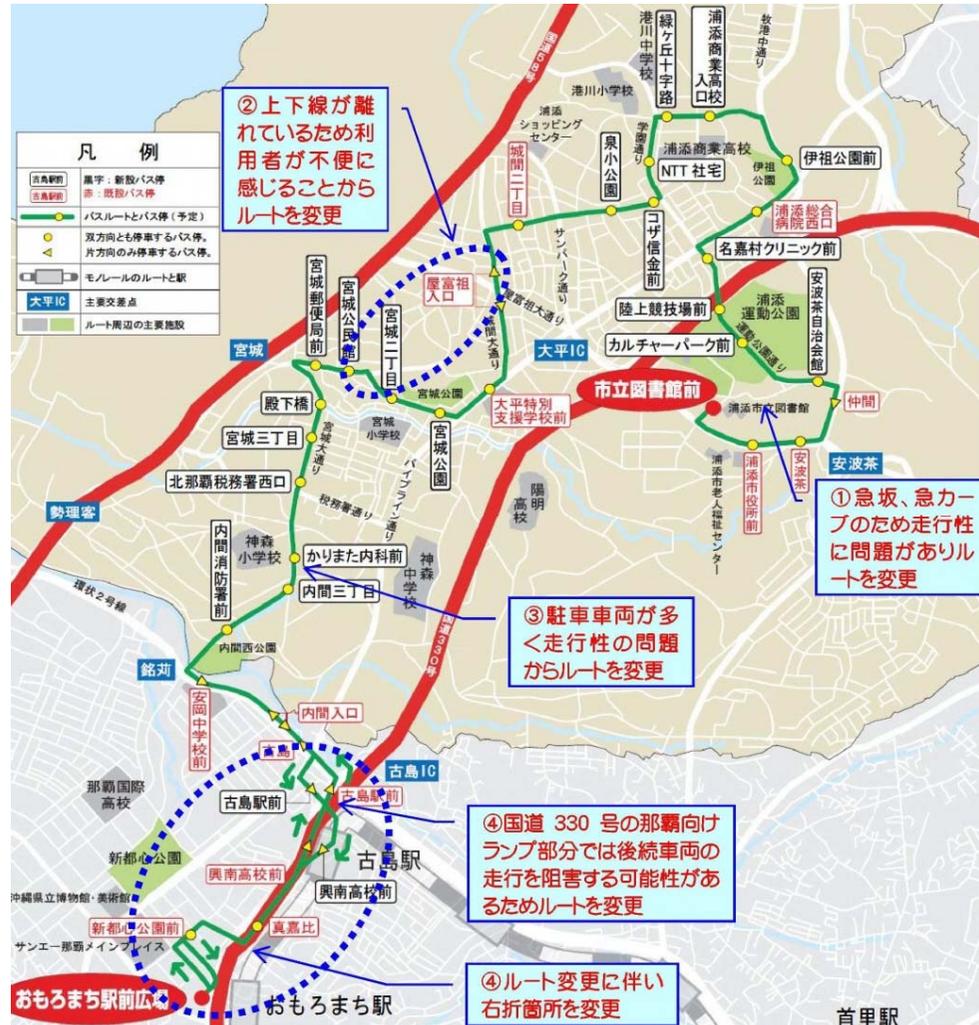
- 対策の改善・充実



①バス交通：浦添市コミュニティバス実証実験

・実施期間及び運行ルート

- 平成22年12月1日～平成23年2月28日（3ヶ月）
- 関係機関や運行車両の運行可能なルート等により決定



・運行主体及び運行車両

- 那覇バス(株)、(株)琉球バスの2社により運行
- 中型バス(定員約60人)6台により運行



・乗車実績

- 乗車の平均人員は、平日416名、休日376名
- 採算ライン(800名/日)には満たなかったものの、実験期間中は増加傾向

※乗車人数は運賃収入÷200円(大人運賃)による単純試算である。

期間	総乗車人数	日平均乗車人数	
		平日	休日
12月(31日間)	12,292名	398名	394名
1月(31日間)	11,893名	409名	344名
2月(28日間)	12,048名	437名	417名
合計(90日間)	36,233名	416名	376名

3.公共交通関連施策の動向



参考) 県内のコミュニティバス等の運行状況

No	地域・名称	運営主体	運行主体	運行形態 (運休日)	運賃	運行頻度	使用車両
①	(中城村) 護佐丸バス	中城村	東陽バス	路線定期運行型 (土日祝日・慰霊の日 ・年末年始)	一般 :200円 小学生 :50円 中学、65歳以上、障がい者:100円	循環ルート:上下各5周 久場・琉大線:2便/日 伊集・普天間:2便/日	 小型バス (ポンチョ)
	護佐丸タクシー		共同交通(有)	デマンド型 (無し)	一般 :300円 障がい者、介助者 :200円	中城村内、指定施設 1時間おきに運行	 タクシー
②	(沖縄市) 中心市街地循環バス	琉球バス 東陽バス	琉球バス 東陽バス	路線定期運行型 (正月三が日運休)	一般 :100円 小学生以下、障がい者:無料	胡屋ルート:15便/日 コザルート:15便/日	 小型バス (ポンチョ)
③	(読谷村) 鳳バス	読谷村	沖縄バス	路線定期運行型 (慰霊の日及び 年末年始運休)	一般 :200円 小学生、高齢者、障がい者:100円	北ルート:11便/日 西ルート:7便/日 南ルート:8便/日	 小型バス (ポンチョ)
④	(南城市) おでかけなんじい	南城市	第一交通	デマンド型 (年末年始運休)	一般 :300円 未就学児:無料	南城市内(久高島除く) 1時間おき運行 13便/日	 ワンボックス (キャラバン)
⑤	(うるま市) 公共施設間連絡バス	うるま市	シルバー	路線定期運行型 (土・日・祝日)	無料	具志川石川線:8便/日 具志川与勝線:8便/日	 ワンボックス (ハイエース)
⑥	(北谷町) C-BUS	北谷町	琉球バス	路線定期運行型 (年末年始)	一般 :200円 小学生、高齢者、障がい者:100円	北ルート:7便/日 南ルート:7便/日	 ワンボックス (ハイエース)

③モノレール駅：乗降者数予想

建設予定駅

経塚駅 完成予想

乗降客数：約3,100人/日（見込み）

経塚公園を含め、緑に囲まれた駅であることから、駅舎の構造フレームを緑と調和するよう景観を形成しています。

また、駅舎内プラットフォーム階外壁にガラリや開口を配置することで、ホーム内環境に配慮した計画としています。



ただこ浦西駅 完成予想

乗降客数：約3,300人/日（見込み）

駅舎北側の外部に回廊を設けることで、快適な溜まり及び、歩行空間を確保しています。駅舎下部の外壁に琉球石灰岩を用いることで、沖縄らしさの演出を図り、また、大屋根の側面には有孔折板とガラスを設置することで、プラットフォームの通気性と可視性に配慮して計画としています。



※完成予想図は実際と異なる場合がございます。

ゆいレールの延長整備について

地下区間

浦添前田駅からただこ浦西駅間の地盤高低差が約40mあり、規定勾配(6%以内)を確保するため、沖縄都市モノレールでは初となる地下区間を計画しました。

地下区間は約600mあり、施工性や経済性から比較的土被りの浅い箇所を開削工法(U型擁壁・ボックスカルバート)で施工し、深い箇所をトンネル工法(NATM)としました。

地下構造物施工イメージ

U型擁壁区間完成予想図

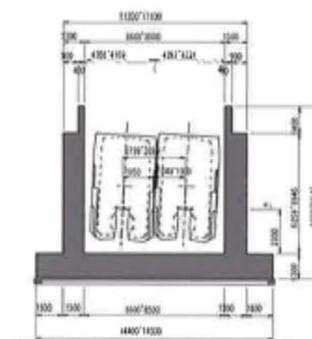


浦添市消防本部付近

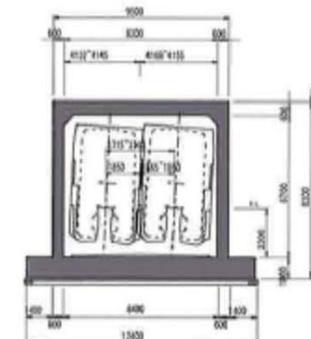


浦添市消防本部の目の前より完全に地下区間となります。

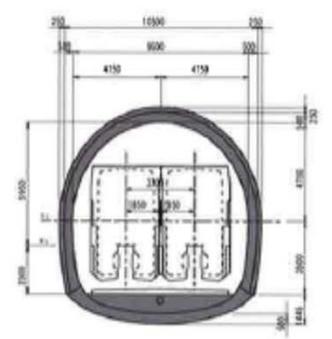
ボックスカルバート・トンネル区間 完成予想図



U型擁壁標準断面図



ボックスカルバート標準断面図



トンネル(NATM)標準断面図

○支線公共交通導入に向けて、浦添市の概況、国県等の関連計画の動向、浦添市及び周辺交通状況、浦添市のまちづくり等を踏まえると以下の課題が考えられる。

■公共交通を取り巻く現状

【地域の現状】

- ・国道58号～国道330号の間、経塚及び当山地域周辺に人口が集中 ●●
- ・経塚地域周辺では人口が増加 ●●
- ・モノレール延長区間の開業や区画整理により、今後、人口の増加が想定 ●●●●
- ・市内に高齢者（65歳以上）の割合が30%を超える地域が点在 ●●●
- ・市内の全ての学校において、半数以上の児童・生徒が自家用車による送迎を経験
- ・牧港、経塚、当山及び西洲地域周辺に就業者が集中 ●●
- ・那覇港浦添埠頭地区及びてだこ浦西駅の開発により就業人口の増加が想定 ●●

【移動特性】

- ・浦添市内を移動するトリップは15.2万トリップとなり、その内58%が自動車を利用 ●●
- ・市内外トリップは、那覇市（11.0万）、宜野湾市（3.9万）が多く、全ての市内外の移動は75%以上が自動車を利用 ●●
- ・公共交通のモノレール及びバスの分担率が低い（モノレール0.4%、路線バス3.1%） ●●

【バス利用の現状】

- ・路線バスの利用は、昭和60年頃から約3分の1に減少 ●●●●
- ・幹線道路以外の市内バス停では利用者が少ない ●●●●
- ・幹線道路以外では、公共交通の空白地域及び不便地域が点在 ●●●●
- ・市内を発着とする東西方向は多いが、バス網の東西方向移動は脆弱なため、分担率が低い

【モノレール利用の現状】

- ・モノレール利用は、開業以降順調に増加 ●
- ・平成31年度内にモノレール延長区間の開業（予定） ●
- ・浦添市民の既存駅利用は古島駅が最も多く、駅へのアクセス手段をバスが約25% ●

【観光客の実態】

- ・近年観光客が大幅に増加し、6割がレンタカーによる移動 ●●
- ・モノレール及び路線バス利用も近年増加 ●●●●
- ・市内を訪れる観光客は日中に多い傾向 ●●●●

■施策等の動向

【浦添市交通基本計画】

- ・広域交通計画や市内の現状等を踏まえ、浦添市内全域を対象とした計画を策定 ●●●●

【浦添市総合交通戦略】

- ・広域交通計画や浦添市交通基本計画等を踏まえ、浦添市全域を対象とした計画を策定し、重点施策パッケージとして整理 ●●●●

【那覇港浦添埠頭地区第一ステージ都市機能用地事業】

- ・にぎわいとゆとりのある質の高い観光型商業交流地区の形成を目指し、県内最大規模の商業施設として、地元生活者や国内外観光客に向けた交流拠点 ●●●●

【てだこ浦西駅周辺土地区画整理事業】

- ・モノレール延長事業の第4駅であるてだこ浦西駅周辺での区画整理事業 ●●

【まちづくりの取り組み】

- ・市内に点在するお店の知識や技を体験できるミニ講座を実施、また、観光客が訪れるスポットの紹介 ●●

【通学路の安全対策】

- ・浦添市通学路安全プログラムを策定し、市内の小学校へ点検、対策等を実施予定 ●

■上位関連計画

【沖縄21世紀ビジョン】

- ・新たな公共交通システムと地域を結ぶ利便性の高い公共交通ネットワークの構築

【沖縄総合交通体系基本計画】

- ・都市部における通勤、通学等の定常的な交通や圏域間の広域移動を支えるバス交通のサービス拡充策の展開を図る

【TDM施策推進アクションプログラム】

- ・総合交通体系の方向性を視野に置き、行政、民間、県民が連携し、主体的に施策を推進

【那覇市・浦添市・宜野湾市・沖縄市・北中城村総合交通連携計画】

- ・基幹バス、支線バスに分けることにより、無駄のない効率的なバス運行を図り、公共交通事業の健全化を図る

【沖縄本島中南部都市圏都市交通マスタープラン】

- ・基幹バスやモノレールとの連携したコミュニティバスの位置付け

【モノレール延長エリア総合交通戦略】

- ・モノレール延長エリアにおける地域整備方針及び目標設定

等

■公共交通の課題

●基本的考え方①：交通不便地域の改善を図る交通手段の構築

- 公共交通空白地域の解消を図り、市民の誰もが公共交通を使える環境の構築

●基本的考え方②：移動制約者（高齢者、児童・生徒等）の移手段を構築

- 事故リスクが高い自家用移動だけでなく、高齢者も利用しやすい公共交通の構築
- 通学に利用が可能な公共交通の構築

●基本的考え方③：市民の利便性を高める交通手段の構築

- 市民の移動特性に対応した交通手段の構築

●基本的考え方④：広域的・幹線の事業との連携

- モノレール延長、基幹バス導入、幹線道路整備等の広域的な交通施策と連携した公共交通の構築

●基本的考え方⑤：まちづくりの取組との連携

- 市民が主体のまちづくり関連の取組と連携した公共交通の構築
- 浦添市が進める様々な施策と連携した公共交通の構築
- 大規模開発のアクセス性を高めるとともに、過度な自動車利用の抑制を図り、渋滞対策の一翼を担う公共交通の構築

●基本的考え方⑥：観光客の利便性を高める交通手段の構築

- 観光施設や人気の飲食店までのアクセス性を高めかつ、レンタカー利用に頼らない公共交通の構築
- 市内のまちめぐりにも便利な公共交通の構築